

令和 2 年度

学校評価 総括評価表

徳島県立川島高等学校

令和２年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（１）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(1) 中高一貫教育の推進	① 中高連携の促進に努め生徒の個性や能力を伸長するとともに，異年齢集団における社会性の育成を進める。 ② ６年間の計画的・継続的な教育の研究を進め，中高の一貫性を促進する。	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	○生徒の学校生活への満足度が８割を超え，教育課程への満足度も９割を超えており，校内が安定していることをあらわしていると考えられる。これを維持しながら，教員，保護者の評価も上げていく取り組みを続けて欲しい。 ○中高一貫教育を活かした教育活動が行われていると思う教員 61.1%（前年比8.7%減）の数値結果は，中高一貫教育校として危機意識を持つべきである。そう思わない教員は，現状を憂いて改善しなければとの意識が高いのか，そもそも意識が低いのか。中高一貫教育推進の任に当たる教員のベクトルが揃えられることを望む。 ○中高一貫教育校のメリットは先取り教育ができること。これは生徒にとってはいろいろな可能性を６年間通して一つの場所で考えることができる事だと思う。中入生の満足度も75%と昨年と比べて大きく上昇している。数学の先取りも必要であるが所見に記載のるように他の教科でも先取りをしてほしい。 ○現状を保ちつつ，向上を目指してほしい。
		① ・中高一貫教育推進委員会を定期的に開催し，学校行事の内容を検討し，充実させる。 ・「中高一貫教育を活かした教育活動が行われている。」と思う教員・保護者の割合は，70%以上をめざす。 ・「学校生活に満足している」の割合は80%以上をめざす。		① ・中高一貫教育推進委員会は，議案を精選し年間５回，中高合同の教科会を３回実施した。 ・中高一貫教育を活かした教育活動が行われていると思う教員は，「ある程度思う」を含めて61.1%（前年比8.7ポイント減）であった。保護者は73.4%（前年比2.7ポイント増）であり，過去３年間の数値は横ばいである。 ・生徒の学校生活への満足度は81.4%で，昨年より1.7ポイント増えている。		〈評定〉 B ----- 〈所見〉 本年度の卒業前に行った中高一貫教育アンケートで，川島高校での学習内容，進路指導，学校行事対しての満足度が 80%以下との結果が出ており，今後魅力ある中高一貫教育校であるための方策を考えなければならない。 本年度は，８月の中学生体験入学は実施できなかったが，中学３年生対象でそれぞれ開催した高校説明会において，川島高校への進学の魅力や利点について保護者も交えて理解を深める機会を設けた。 中高接続のための数学の先取り学習について，６年生対象のアンケート結果では，中入生の満足度は75%（前年度は48.2%）に上昇し，他教科でも実施してほしいとの意見が寄せられた。	
		② ・川島高校での学習内容の満足度を80%以上とする。		② ・教育課程やクラス編制・講座編成について中高一貫教育推進委員会で来年度に向けての課題を話し合い，方向性を確認した。また，授業時数の確保に向け，学校行事の精選についても話合った。 ・教育課程（選択科目等）の満足度が92.3%で前年度よりも約４ポイント増えている。		本年度は，８月の中学生体験入学は実施できなかったが，中学３年生対象でそれぞれ開催した高校説明会において，川島高校への進学の魅力や利点について保護者も交えて理解を深める機会を設けた。 中高接続のための数学の先取り学習について，６年生対象のアンケート結果では，中入生の満足度は75%（前年度は48.2%）に上昇し，他教科でも実施してほしいとの意見が寄せられた。	
		活動計画		活動計画の実施状況			
		① ・前年度６年生対象の「６年間の学校生活」のアンケート結果を踏まえ，中高連携の学校行事をより充実させる。 ・県立川島中学校オープンスクールでの学校説明会や，県立川島中学校３年生対象説明会での発表内容を十分検討する。 ・中高相互の授業見学，研究授業に対する協議や中高合同の教科会において，授業方法等について検証し，生徒が積極的に授業に参加する授業展開が出来るよう授業の工夫改善を図る。		① ・令和２年の１月に６年生を対象とした中高一貫教育アンケート結果を参考に，中高一貫教育推進委員会で中高の学習指導，進路指導や生徒間の交流について協議した。また，10月に「先輩に学ぶ」と題して，２年生が５年生から高校生活の話を聞いたり，質問したりといった形での取り組みや，例年行っているスペシャルアプローチ(SA)での５年生が３年生を指導する特設SA，さらには中学生の高校部活動への参加について等，多彩な中高連携について検討した。			
		② ・令和３年度の教育課程を教育課程委員会及び中高一貫教育推進委員会で検討し，編成する。その中で，令和４年度入学生より新課程となるので，そこを見据えた教育課程を考える。 ・来年度の学力確認テストの実施や授業の展開，クラス編制等の検証をする。		② ・令和３年度入学生の教育課程については，教科会及び教育課程検討委員会，中高一貫教育推進委員会を開催して検討し，令和２年度に改変した教育課程を継続する方向で進めた。 ・中高相互の授業見学や中高合同の教科会を３回実施し，生徒の実情や進捗状況を確認した。 ・定員の発表を受け，令和３年度入学生のクラス編制について，中高一貫教育推進委員会などで検討し，応用クラスの方向性について確認した。			

島高等学校 学校評価についての総括評価表（２）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(2) 確かな学力の充実と指導力の向上	① 個別面談の充実や、朝の学習、家庭学習など自主学習の促進に努める。 ② 学力向上を図る研修の充実や、授業の創意工夫に努める。 ③ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習・指導方法の研究を推進する。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	〇三者面談や個人面談、授業に対する満足度、生徒の平日の家庭学習時間が増加している。目標を高く評価したい。指導法を工夫し、授業スキルを向上させようとする姿勢と努力の成果と考える。生徒の授業に対する満足度は、家庭学習時間と業時間との関係がある。関係がある。	〇生徒保護者ともに面談に対する満足度は高いが、学力向上や進路指導の個別面談の充実の一環として、生徒の授業に合わせた具体的な課題を教員と話し合う。また、時間学習の手立てを、学習方法の指導も行う。	
		活動計画	活動計画の実施状況				〇高校にもなる学校に保護者が少なく、なかには学業に力を入れている者が少なく、保護者の意識が低い。大学受験をする生徒は多い。高校3年生のなかでは遅いので、高校1年生の時から保護者と、生徒、先生で情報を共有することは大事な事だと感じた。
		① ・三者面談や個人面談に対する生徒の満足度75%以上をめざす。 ・手帳（スラノート）を活用することにより、家庭での平日平均学習時間を5分伸ばす。 ・「朝の学習により、学習の習慣が身についた。」と思う生徒の割合は、50%以上をめざす。 ・読書の推進に努め、年間貸出冊数1,800冊以上を目指す。 ・基礎学力向上をめざして、校内課題テストの基礎分野50点で学年平均25点以上をめざす。 ②③ ・生徒の授業に対する満足度は、75%以上をめざす。 ②③ ・国・数・英・理・歴・公において研究授業と研究協議を年間3回以上実施する。	① ・三者面談や個人面談に対する生徒の満足度は85.9%（前年比6.7ポイント増）であった。 ・朝の学習に毎日取り組むことは効果があると感じた生徒は46.1%（前年比1.7ポイント増）であった。 ・平日の家庭学習時間は、4年生は1時間21分、5年生は1時間29分、6年生は2時間0分（前年比4年生1分増、5年18分増、6年生13分増）であった。 ・年間入館者数は7,620人（1月末現在）で、昨年より減少したが、臨時休校の影響を考慮すると昨年と並と言える。図書貸出冊数も2,945冊（1月末）で、前年より大幅に増加した。 ・課題テスト基礎分野の平均点25点を4、6年生は上回ったが5年生は下回った。（4年25.7点、5年22.8点、6年29.9点） ②③ ・授業に対する生徒の満足度は88.4%（前年比3.4ポイント増）であった。 ・習熟度別学習や少人数学習に対する生徒満足度は70.8%（前年比2.8ポイント増）であった。	〈評定〉 B ----- 〈所見〉 三者面談や個人面談に対する肯定的意見が生徒85.9%、保護者85.8%となり、生徒保護者ともに面談は満足できているようである。 平日の学習時間は、5、6年生で前年度よりも10分以上増えている。特に5年生が手帳活用の効果はあらわれているのではない。しかし、点課題テストの平均点は25点に達しておらず、学習方法の改善が必要と考えられる。 生徒の授業に対する満足度は目標の75%以上を達成できている。今年遅れの休業の授業遅れの進捗も学習効果の両方を上げなければならなかった。電子黒板を活用しつつあるが、より一層の指導力の向上と、授業改善に努めたい。 習熟度別学習や少人数学習に対する満足度はやや上がった。生徒の主体性や深い学びにつながるよう、効果的な実施ができるように努めたい。 貸出冊数が昨年より増加した。授業での利用をさらに呼びかけ、読書への意欲喚起を促す努力を続けたい。	〇三者面談や個人面談、授業に対する満足度、生徒の平日の家庭学習時間が増加している。目標を高く評価したい。指導法を工夫し、授業スキルを向上させようとする姿勢と努力の成果と考える。生徒の授業に対する満足度は、家庭学習時間と業時間との関係がある。関係がある。	〇生徒保護者ともに面談に対する満足度は高いが、学力向上や進路指導の個別面談の充実の一環として、生徒の授業に合わせた具体的な課題を教員と話し合う。また、時間学習の手立てを、学習方法の指導も行う。	
		① ・生徒との常時面談を心がける。 ・朝の学習の時間を毎日10分間設定し、本校独自の「朝の学習ノート」で自学自習を行わせる。 ・4・5年生は国数英を中心に小テスト等を計画的に実施し、基礎学力の定着を図る。6年生は各自の進路目標達成のための学習を行う。 ・毎週月曜の朝、手帳（スラノート）に週の計画を立てさせる。また、可能な範囲で授業でも活用する。 ・宿題・週末課題の提出を義務づける。 ・家庭学習時間調査を年6回行う。 ・図書館だよりや展示内容の充実を図るとともに、各教科と連携して、授業における図書館利用の機会を増やし、読書への興味関心を喚起する。 ②③ ・学力向上検討委員会と連携し、国・数・英・理・歴・公における学力・学習状況についての目標・方策を設定し、学習支援体制の改善に努める。	① ・個人面談は4月と9月、及び10月の科目登録時を含め3回以上実施できた。また、保護者面談は8月の三者面談、10月の年次PTAなどで実施できた。 ・朝の学習は全校集会など特別な場合を除き毎日実施できた。4・5年生は、国数英を中心に小テストを行うなどして基礎学力の向上に向けて努力を重ねることができた。6年生は生徒の進路希望に沿った内容をホームルーム単位で実施した。 ・朝の学習ノートや手帳（スラノート）は、生活の記録、学習内容や時間を担任がチェックした。 ・宿題・週末課題は、提出させて教科担任がチェックした。 ・家庭学習時間調査は、毎月実施し集計結果を職員会議等で報告した。 ・図書館では季節ごとにテーマを設け図書館の利用促進を図るとともに、調べ学習に使える資料や小論文によく出る本の購入や紹介に努めた。 ②③ ・今年度も中高合同で学期末に教科会を実施した。さらに進研模試の結果を学年で分析した。これらの取り組みを通して授業改善に生かすと共に、教師の意識改革、ノウハウの共有を進めた。		〇授業に対する生徒の満足度が約9割あるのに、習熟度別学習や少人数学習に対する生徒の満足度は7割と低いと感じる。	〇読書については、調べ学習や進路に関する図書の利用などを通して、さらに推進する必要がある。	
					〇朝の学習の時間への生徒の評価が低いことは悩ましい。ICTの活用など新たな手立ても試みて欲しい。	〇模試分析会や教科会を定期的実施し、生徒の現状を年次、団や各教科担任が分析し、個々の指導改善を行う。	
					〇クラスにおける三者面談、個人面談は、必要に応じて増やしていくべきである。		

令和 2 年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（3）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(3) 生徒の能力・適性に 応じた進路の実現	① 進路指導プログラムの改善・充実を図り、 進路達成意欲を高める。 ② 三者面談・年次 P T A などにより保護者との連携強化に努める。	評価指標		評価指標の達成度		○ コロナ禍の制約下、当初計画を変更、工夫して実施したことを評価したい。生徒が適切な進路選択をするためには、最新かつ良質な情報の提供が欠かせない。また、入試制度や雇用環境が大きく変化した時期に当たったことから、きめ細かな進路指導をして、生徒や保護者の満足度において高い評価を出せたことを評価したい。 ○ コロナの影響でオープンキャンパスに参加できなかったのは大きな痛手だと思うが、講演会などを通して進路情報を得ることができて安心した。また、生徒の満足度も昨年と変わらずとの数値を見てこちらも安心した。保護者の人に大学入試の仕組みを早くから理解していただくことが大事なことだと思う。 ○ 補習、課題テスト、模試等に対して積極的に取り組む生徒を増やすためには、現在の取り組み、生徒への働きかけを地道に継続することが大切と思う。それが保護者の満足度（学校への信頼度）に現れていると思う。 ○ 個々の能力に応じた対応をしている。	○ 補習や課題テスト、模試等へ積極的に取り組む生徒が昨年よりは増加しているものの、70%を超えていない。学習意欲を向上させるためには学習のスマールステップで達成感を味あわせることが重要となる。また、明確な進路目標を持つことが大きな躍進力になるので、早期から自己分析や進路調べを行わせたい。
		① ・ 補習、校内課題テスト、模試等に積極的に取り組む生徒の割合は、70%以上をめざし、保護者の満足度は、80%以上をめざす。 ・ 進路意識を高める行事や講座に対する満足度は、生徒・保護者ともに75%以上をめざす。		① ・ 補習、課題テスト、模試等に対して積極的に取り組んでいる生徒は68.6%（前年比4.6ポイント増）、保護者の満足度は90.4%（前年比1.0ポイント減）であった。 ・ 進路意識を高める行事や講座に対する満足度について、生徒は75.7%（前年比0.5ポイント減）であり、79.9%の保護者が進路情報を得られる機会が設定されていると感じている。			
		② ・ 個別面談に対する保護者の満足度は、85%以上をめざす。 ・ 進路指導に対する保護者の満足度は、75%以上をめざす。		② ・ 個別面談に対する保護者の満足度は85.8%（前年比2.8ポイント増）であった。 ・ 進路指導に関する保護者の満足度の各項目を平均すると84.6%でありおおむね好評であった。			
		活動計画		活動計画の実施状況			
		① ・ 進路実現のために補習、課題テスト、模試を計画的に実施するだけでなく、「朝学」「総合的な探究の時間」「土曜日補習」など様々な学習支援を行い、学力や小論文力養成を図る。 ・ 4年生に対し「キャリアレクチャー」、5年生に対し「アカデミックレクチャー」、6年生に対し「進路ガイダンス」を実施する。 ・ 小論文講演会、進路講演会、進学座談会を各1回以上実施する。 ・ 6年生の就職生集会を年8回、5年生の就職・公務員説明会を年1回実施する。		① ・ 補習、課題テスト、模試、「サタデーサポート（土曜日補習）」等の学習支援をその都度の状況に合わせて計画を見直しながら実施した。 ・ 4年生の「キャリアレクチャー」、5年生の「アカデミックレクチャー」は実施時期をずらしたり、リモートを活用したりするなど、コロナウイルス感染予防に努めながら実施した。6年生の「進路ガイダンス」は新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。 ・ 小論文模試を各年次ともに1回ずつ実施した。入試小論文指導は個別指導で行った。 ・ 小論文講演会を各年次ともに1回ずつ実施した。進路講演会は各年次1～3回実施した。進学座談会は例年とは実施形態を変えて実施できた。 ・ 6年生の就職生集会は6回の実施であったが、個人面談の機会を増やした。5年生の就職・公務員説明会を実施し、公務員希望の生徒には校外模試を実施して実力の判定と進路指導に役立てた。			
		② ・ 夏季休業中、冬季休業中、大学入学共通テスト後などに、三者面談を実施する。 ・ 年次 P T A を年2回（6・10月）実施し、保護者面談や保護者対象の進路講演会を実施する。 ・ P T A 大学視察を年1回実施する。		② ・ 夏季休業中は生徒全員を対象に、冬季休業中及び大学入試出願前などには随時三者面談を実施し、保護者との連携強化に努めた。 ・ 新型コロナウイルスの影響で6月の年次 P T A は中止となったが、10月の年次 P T A ではリモートを活用しての保護者対象の進路講演会を実施し、保護者面談も行った。 ・ P T A 大学視察はコロナ禍のため、実施できなかった。			

令和 2 年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（４）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見		次年度への課題と今後の改善方策	
(4) 基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底	① 生徒一人一人の自覚を促し、基本的生活習慣を身につけさせる。 ② あらゆる教育活動を通して、きめ細やかな生徒指導を行い、いじめの防止等の取組に努めるとともに教育相談活動の充実を図る。	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	○適切な保健・安全教育が行われ、健康で安全な生活を心がけているかに関する肯定的意見が、生徒、保護者、教職員ともに9割を超え、安定した学校であることを感じる。継続して、それぞれの教職員がそれぞれの持ち味で生徒指導にあたり、保護者とも連携していつて欲しい。 ○一部の生徒において、自分勝手な行動場面や服装、頭髪等の違反が見られるとことであるが、あきらめない、根気強い指導の継続をお願いしたい。 ○悩みなどの相談ができる教員が身近にいて欲しい。生徒にとって、より身近な存在と感じられるよう、教員側から生徒に向けて、日常的に積極的な声かけを望む。 ○校内で悩みを相談できる相手がいる生徒が80%いることはいいことだと思う。自分は一人じゃないと思えることが人間が生きていくには大事なことである。いくら勉強ができてでも学校に來れなくては意味がないから。毎日登校して授業を受けることができる体制が整っていることに安心した。 ○授業態度、身だしなみ、スマートフォンのルール、マナーの対応が必要だと思う。	○授業を受ける態度指導、身だしなみ指導、遅刻指導や生活安全指導等について、正副担任や各年次団、生徒課の役割を明確にし、それぞれが連携を図り効果的な指導を継続して行う必要がある。 ○保護者との連携のもとで保健相談課を中心に関係する複数の教員が関わり、個別事案に応じた適切な支援を行う必要がある。そのためには、連携協力体制づくりが重要である。 ○健康と安全の意識の上に立って健康管理を自ら実践できるように日常的な指導が必要である。面談等を活用し、生徒個人の理解を深める努力をしていきたい。 ○交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守、自転車運転時のマナーの向上、安全運転の徹底と自他の安全を守る意識の向上に努めることが重要である。 ○SNSは公共の場であることや、その向こう側には善意の人ばかりでなく様々な人がいることを意識させ、携帯電話やスマートフォンの使用時のルールやマナーを身につけさせることが必要である。	
						〈評定〉 B ----- 〈所見〉 9割近くの生徒は基本的生活習慣、社会のルールの大切さを自覚生活することができている。しかし、一部の生徒において自分勝手な行動が見られる場面もあった。 服装頭髪等の継続的指導を要する生徒はごく一部に限られ、9割強の生徒は身だしなみを心がけて生活できており全体的に安定している。しかし、ネクタイ等の着こなし、女子のスカート丈や男子の柄物靴下や奇抜な髪型などの一部生徒の違反に対しては、継続しての指導が必要である。 友達や先生等校内に悩み事を相談できる生徒の割合、及び迅速で丁寧な相談体制を評価する保護者指数は80%を超えた。今後も個に応じた組織的な取り組みを継続していきたい。 適切な保健安全教育が行われ高い評価を受けている。90%以上の生徒は健康安全について高い意識を持つ一方で、自己の健康管理が不十分な生徒が見受けられる。			
		活動計画		活動計画の実施状況					
		①・全校集会、指導週間を月1回実施し、基本的生活習慣の確立を中心とした生徒指導の徹底・充実に努める。 ・学校評価アンケートにおける、生徒の達成度は、80%以上をめざす。 ②・学校評価アンケートにおける、生徒指導に関する生徒・教職員の達成度は、80%以上をめざす。		①・年間で全校集会を4回、指導週間を10回実施した。 ・基本的生活習慣、社会のルールやマナーの大切さを自覚させる指導に関する肯定的意見は、生徒は93.8%、保護者は87.7%、教職員は100%であった。携帯電話・スマートフォン使用時のルールやマナーを理解させる指導に関する肯定的意見は、生徒は96.9%、保護者は87.4%、教職員は97.2%であった。服装・頭髪等高校生らしい身だしなみを心がけて生活しているか（適切な指導が行われているか）に関する肯定的意見は、生徒は95.6%、保護者は91.1%、教職員は94.4%であった。 ②・学校には悩み等を相談できる教員や友達がいるかに関する生徒の肯定的意見は88.7%であった。学校は、保護者からの連絡や相談に迅速かつ丁寧に対応することに関する保護者の肯定的意見は83.4%であった。教員の共通理解のもと適切できめ細やかな生徒指導に関する肯定的意見は、保護者は79.6%、教職員は77.7%であった。適切な保健・安全教育が行われ健康で安全な生活を心がけているかに関する肯定的意見は、生徒は94.6%、保護者は90.1%、教職員は97.2%であった。					
		①・ホームルーム活動、年次集会、全校集会、指導週間等のあらゆる機会を活用し生徒の自覚を促し、指導の徹底を図る。また、登下校指導、校内外巡視等を適宜実施し、生徒の実態把握とともに生徒の注意を喚起することによって事故や問題行動の未然防止を図る。 ②・授業態度、身だしなみや携帯電話に関する指導等について共通理解し、指導の徹底を図る。また、教職員間の情報交換を密にし、個々の生徒の指導について連携して取り組む。さらに、ホームルーム担任を中心に保護者との連絡を密にし、相談等に対応する。 ・長期休業中の校外巡視等を、PTAや地域、青少年育成補導センター、警察署等の協力のもとで実施し、連携を深める。 ・交通安全講話、非行防止教室、交通安全教室、薬物乱用防止教室（4年生対象）、健康教育講演会（4年生対象）を年1回以上実施する。 ・カウンセリングの体制を充実させ、丁寧な支援を行う。		①・全校集会、年次集会、ホームルーム活動等を通して、生徒指導上の注意事項について生徒自身に考えさせ、事故や問題行動の未然防止を図った。また、毎月20日の「学校安全の日」にあわせて3日間の指導週間を設定し、登下校指導、服装・頭髪指導、遅刻指導、校内外巡視を実施した。生徒会役員と生活委員による朝の挨拶運動、交通委員による下校時の交通マナーアップの呼びかけ等、生徒による活動も積極的に実施した。 ②・「携帯電話校内使用禁止」の校則に基づいて、落ち着いて学業に取り組める環境づくりに努めた。また、放課後の使用や校外での使用についても自覚を促し、ルールやマナーを守り、よく考えて行動させることにより、携帯電話に関連するトラブルや犯罪の未然防止を図った。また、授業時の生徒の態度や言動についての情報交換を密にし、継続的な指導を行った。 ・校外巡視等で関係機関との連携を深めることができた。 ・各種講演会を実施した。 ◇阿波吉野川警察署交通課より講師を招いて交通安全講話を実施した(7/29)。 ◇原付通学生に対して、阿波高校と合同で原付車安全運転講習会を実施した(7/15)。 ◇様々な非行と犯罪(加害・被害)の防止を目的として徳島県警察本部生活安全部生活環境課から講師を招いて非行防止教室を実施した(1/20)。 ◇阿波吉野川警察署生活安全課スクールサポーターを講師に招き、4年生に対して、薬物乱用防止教室を実施した(7/6)。 ・4年生に対しての心肺蘇生法講習会は今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため取りやめになった。夏季休業中に生活習慣改善プロジェクトを全学年で実施した。 ・年に2回悩みごとアンケートを実施し、生徒の把握に努めると同時にスクールカウンセラーへの支援要請など早期対応を図った。					

令和 2 年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（５）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(5) 人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進	① 人権教育指導計画の推進と“あわ”人権学習ハンドブックの活用により人権問題を解決できる生徒の育成に努める。 ② 人権尊重の意識を高めるため、創意溢れる具体的な取組の展開に努める。	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	○人権学習ホームルーム活動が適切に実施され、人権の大切さについて考え、話し合い、学ぶ機会とできていることを評価する。卒業後に人権の大切さについて語り合う機会は少なくなる一方で、人権侵害を直に意識する機会は増えると思われることから、主題設定や内容を精査しながら、着実に実施して欲しい。 ○人権の大切さを自覚している生徒が9割を超えているのは、日頃の取り組みの成果と思う。これからも人権課題を自分事として考えていく取り組みを継続して欲しい。 ○昨年、今年と毎日テレビ等で見かけるコロナ差別。いつ自分が感染してもおかしくない状況で差別、偏見は決していかなる理由があってもしてはいけないことである。人権委員の人がリーダーシップを発揮しているとあるが、頑張ってほしい。 ○十分対応できていると感じる。
		①・「人権学習ホームルーム活動の実施回数と内容は適切であり、人権教育は充実している。」と思う生徒の割合は、80%以上をめざす。 ②・「人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしている。」と思う生徒の割合は、85%以上をめざす。 ・「人権を大切にする教育活動が行われている。」と思う保護者の割合は、85%以上をめざす。		①・人権学習ホームルーム活動の実施回数と内容は適切であり、人権教育は充実していると思う生徒の割合は、「そう思う」(34.5%)と昨年比6.6ポイント向上した。また「ある程度そう思う」は(47.4%)を合わせると81.9%（昨年比0.4ポイント減）であったが、ほぼ目標を達成することができた。 ②・人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしていると思う生徒の割合は、「そう思う」(37.1%)と「ある程度そう思う」(53.4%)を合わせると90.5%（昨年比6ポイント増）であり目標を達成することができた。 ・人権を大切にする教育活動が行われていると思う保護者の割合は、「そう思う」(19.0%)と「ある程度そう思う」(64.1%)と合わせると83.1%（昨年比2.7ポイント減）となり、目標を達成することができなかった。		〈評定〉 B 〈所見〉 人権学習ホームルーム活動の中で“あわ”人権学習ハンドブックを活用し、多様なテーマを取り入れるよう配慮し、年次の状況に応じた内容の展開となった。 鴨島支援学校との交流は、6月の鴨島支援学校の運動会、11月の鴨島支援学校の学校祭ともに中止となり残念であった。また、「人権講演会」も生徒のみの実施で保護者に参加してもらえなかったため、本校の人権教育に対する理解が進まなかったと考える。 映画鑑賞会は、生徒にとって身近なアニメーションであり、わかりやすく概ね好評であった。 今年度で13年目である「人権の日」の放送は、朝の学習時間を利用し各ホームルームの人権委員が意欲的に取り組み充実していた。様々な「個別的な視点」や「道徳的内容」を取り上げ「知る」ことの大切さや身近な人権について考えを深めることができた。	
		活動計画		活動計画の実施状況			
		①・人権学習ホームルーム活動においては、各年次や各クラスの実態に応じた学習主題を設定し、できるだけ多くの「個別的な視点」や「普遍的な視点」を盛り込んだ授業を展開し、生徒が積極的に参加できる授業の改善に努める。 ・各年次で必ず「同和問題」についての学習を取り上げ、同和問題に対する生徒の意識の向上を図る。 ・徳島県人権教育推進方針に追記された「日本人拉致問題」「災害時における人権問題」や「性の多様性」についても教材化に努め、「人権の日」の放送等でも積極的に取り入れる。 ・授業展開・資料に関して近年の新しい人権課題や他校の動向等も考慮し指導内容の改善に努める。 ②・支援学校との交流への積極的な参加を促し人権意識の高揚を図る。 ・人権新聞の編集に人権委員を積極的に活動させ、内容の充実を図り、年3回発行する。 ・講演会や「人権の日」の放送等については、中学校や保護者等に配慮して検討し充実させる。 ・校内外の様々な取組において人権委員がリーダーシップを発揮し活動が活性化するよう指導する。 ・人権尊重の精神の涵養を図り、日頃の声かけ、呼びかけに努める。 ・道徳教育の観点からも生徒一人一人の「生きる力」の育成に努める。		①・人権教育推進委員会で企画・立案した年間指導計画に沿って人権学習ホームルーム活動が展開できた。 ・主題設定には“あわ”人権学習ハンドブックを積極的に活用し、高校3年間を見据えてできるだけ「個別的な視点」と「普遍的な視点」をバランスよく取り入れた。また、昨年度と同様に「個別的な視点」の中でも特に「同和問題」に重点を置き、各年次において必ず取り上げるように計画し実施した。 ・人権学習ホームルーム活動の生徒の「自己評価票」により、生徒の取り組みや感想が把握でき効果的に利用した。 ②・「人権新聞」を各学期毎3回発行し、生徒の感想文等内容の充実を図り、家庭への良き情報発信となった。 ・新型コロナウイルス感染症への対策のため、鴨島支援学校運動会や学校祭に参加し交流を深めることができなかった。 ・体育館の改修工事に伴い、講演会が実施できなかったため、各HRの電子黒板を利用しての人権映画鑑賞会として、「ドキュメンタリー・アニメ『めぐみ』」を視聴した。映画鑑賞の前に「北朝鮮当局による日本人拉致問題」についての講話で事件の概要を確認したが、生徒の多くは拉致事件について知識がなかったようである。生徒の感想文には事件の内容を知った驚きや被害者家族の苦悩に心を寄せたり、6月に亡くなられた家族会の代表である横田滋さんへの哀悼の意を表したりしたものが見られた。アニメーションでの学習が中心となることで、生徒にとってより関心を持って参加でき、理解もしやすい会であった。 ・毎月10日の「人権の日」では年間を通じて各ホームルームの人権委員による「人権の日」の放送を行い、人権委員会活動の活性化に繋がった。取りあげるテーマについては、「新型コロナウイルス感染症に関係する偏見と差別」や「黒人差別」「幸福度」等の問題も取り上げ、生徒自身の人権意識や道徳に対する意識の向上に努めた。中学生にも放送を担当してもらい、中学校での新聞記事を取り入れた人権学習の内容について紹介するなど、中高連携で同じ人権課題について共に学ぶ機会とした。校内において人権委員がリーダーシップを発揮する機会も増えてきた。			

令和２年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（６）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価			学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(6) 心身ともに健康な生徒を育てる特別活動の充実	① 学校行事，生徒会活動等を通じて生徒の自主性の育成に努める。 ② ホームルーム活動や部活動のより一層の充実と活性化を図る。	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	○部活動の入部率が100％というのはいすばらしい。学校の活力につながっていると思う。今後も新型コロナウイルスの影響もあると思うが，継続して生徒の成長につなげて欲しい。 ○ホームルーム活動の一層の充実と活性化を図ると重点目標に掲げているが，評価指標と活動計画，評価にも記述がないことが腑に落ちない。 ○部活動においては，成績に固執することなく，参加の充実感がある活動となるよう，また，中高一貫教育校としての特色が活かされる活動を追及して欲しい。 ○文化祭は開催できず，体育祭は中高別になり内容も例年通りにはいかなかったと思うが，全くどちらも開催できない学校もある中で，新しい生活様式の中で生徒会を中心に活動をしているとあるが，生徒の意欲に敬意を表す。来年は行事が全部行えることを願う。音楽部の定期演奏会が中止になったことも残念である。楽しみにしていた。 ○十分対応できていると感じる。	○生徒会役員会や各種委員会を開催し，ホームルームや部活動における満足度・不満足度などを検証し改善する。 ○生徒会活動がより積極的に行えるよう，各種委員会の開催や行事内容の精選を図る。また，アンケート調査を実施し，生徒の意見を積極的に取りあげるようにする。 ○生徒主体の活動が行えるよう特別活動課員と生徒会役員との連絡を密にし学校行事等の事前準備を十分ににする。 ○特別活動を通じて普段から将来について考えていけるようサポートする。 ○中高一貫教育校としての特色を活かす部活動の在り方を考える。 ○新しい生活様式の中で学校行事と部活動の在り方を考え，より良い対策を講じていく。 ○ホームルーム活動においても新たな取組により活性化を図っていく。
		①・通学路の一斉清掃を年間で2回実施する。 ・川島中高祭，球技大会など，学校行事への生徒の満足度を85%以上にする。 ・生徒の主体性を促し，学校行事や生徒会活動に積極的に参加するよう適切な指導を行う。	①・通学路の清掃に関しては，年間を通して1回の実施となった。 ・本年度は新型コロナウイルスと体育館の改修工事のため川島中高祭や球技大会が実施できなかった。	〈評定〉 B ----- 〈所見〉 本年度は新型コロナウイルスの影響によりほとんどの学校行事ができなかったので，反省点を精査し，新しい生活様式の中で実施できるように来年度に向けてより充実したものに改善していきたい。 部活動の入部率は目標を達成した。複数の部活動に入部している生徒もおり，積極的に部活動に参加していることがうかがえる。来年度は部活動の内容をより充実したものにしたい。さらには中高一貫教育校としての特色を活かす部活動運営を模索したい。				
		②・中央委員会を開催する。 ・部活動の入部率90%以上をめざす。 ・部活動委員会を年2回開催する。	②・部活動の入部率は100%（男子90%，女子107%）と目標を達成できた。 ・部活動委員会を年2回開催し，部活動の活性化等について話し合うことができた。					
		活動計画	活動計画の実施状況					
		①・生徒会や各種委員会が連携し，通学路や校内の清掃を行うなど積極的に美化活動に取り組む。 ・川島中高祭への積極的参加を促し，意識の高揚を図る。また，生徒会を中心に生徒が主体となって運営できるよう適切な指導を行う。 ②・部活動への積極的な参加を促す。また，部員同士で十分に話し合いをさせ，年間活動方針を明確にさせる。 ・部活動委員会を通して，部活動間で連携を深めるとともに，問題点を抽出し話し合う。	①・今年度は通学路の清掃や美化活動を1回行うことができた。 ・生徒会では役員を中心に，体育祭の計画や実施，あいさつ運動などを行う事ができた。また，学校行事において，新しい生活様式の中で生徒会を中心に学校行事の在り方を精選，変革する活動を行っている。 ②・今年度は新型コロナウイルスの影響で始業が遅れ，新入生部員の入部率が83%となった。（昨年度は103%）新しい生活様式の中での部活動の在り方について再考する必要がある。 ・部活動委員会を通して，各部活動間で連携を深めると共に，中高一貫教育校の特色を活かす部活動の実施について話し合った。					

令和２年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（７）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(7) 環境教育及び国際理解教育の推進	①「新学校版環境ＩＳＯ」に取り組むなど環境保全活動に努める。 ②国際性を高めるため積極的に国際交流を図る。	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	○新学校版環境ＩＳＯへの取組により，生徒一人一人の環境保全への姿勢が，より主体的，積極的なものとなるよう工夫して，目標を概ね達成していることを評価する。 ○国際理解教育を推進するために，地元の大学とのコラボや台湾の学校とのZoomでの交流を参加生徒だけでなく，全ての生徒が共有できる手立てを工夫して欲しい。 ○従来の国際交流の場がなくなってしまったことは残念だと思うが，新しい交流の仕方を考えて実施したことは素晴らしいと思う。異文化に触れることは将来に向けて大きな意味を持つと思う。私も子どもが学生時代に中国の生徒を受け入れて，近所の人にも力を借りて日本の文化を学んでもらったことが今いい思い出として残っている。 ○国際性を高めるため，積極的に国際交流を図るためにも，まず自国や自分たちの身近な文化を理解する必要があると思う。他国の文化・習慣を尊重し，信頼関係を築いていくためには，自分たちの文化を理解することが前提だと思う。 ○十分対応できていると感じる。
		①・『新学校版環境ＩＳＯ』に取り組み，清掃活動や環境美化に積極的に取り組んでいる」と思う生徒の割合は，80％以上をめざす。 ・「ゴミの分別・節電・節水等に努めている。」と思う生徒の割合は，80％以上をめざす。		①・「清掃活動や環境美化に積極的に取り組んでいる」と回答した生徒の割合は78.9％(前年度より2.7ポイント減少)であり，目標達成まで，あと一歩だった。 ・「ゴミの分別・節電・節水等に努めている」と回答した生徒の割合は90.7％(前年度より6.0ポイント増加)であり，目標を達成することができた。		〈評定〉 〔環境教育〕 B 〔国際理解教育〕 B 〈所見〉 「レッツクリーン」環境美化活動の初めての試みとして，希望者のみの少人数で実施した。参加した生徒たちは積極的に活動し，充実感を得られたようだ。リーダーの育成にもつなげていきたい。 新型コロナウイルス感染拡大防止のために例年行われている校外のセミナーが中止される中でも，案内されたセミナーに積極的に参加する姿勢が見られた。	
		②・他国の文化・習慣に関心を持ち違いに気づきそれを受け入れ，また自国の文化にも目を向ける姿勢を養う。 ・国際交流を目的としたセミナーやプログラムの参加を促す。		②・四国大学の留学生との交流会では，事前に質問を英語で考えたり，各国の文化や習慣について調べ，交流会の後でも更に知識を深め充実した体験をすることができた。 ・校外のセミナーの機会は例年より少なかったが，積極的に参加しようとする姿勢が見られた。			
		活動計画		活動計画の実施状況			
		①・『新学校版環境ＩＳＯ』告知板を掲示し，活動内容の広報に努める。 ・各クラスの日直に「節電・節水，ゴミ処理，環境美化への取組」をE c o D i a r yに記録させ，意識の高揚を図る。 ・各クラスにゴミ箱３種類と「古紙回収箱」を設置し，ゴミ分別とゴミの減量化を呼びかける。 ・「レッツ・クリーン」環境美化活動を積極的に推進する。 ・美化委員と生徒会が協力して，『新学校版環境ＩＳＯ』の告知板，節電・節水・ゴミ分別ポスターの掲示やラベルの張り替えを行う。		①・『新学校版環境ＩＳＯ』告知版を設置し行動方針等諸活動の内容を紹介した。 ・各クラスでE c o D i a r yを記録させ，啓発に役立てている。 ・生徒の要望で，ゴミ箱の種類を増やし，ゴミの分別収集に改善が見られた。 ・１学期の環境美化活動はコロナウイルス感染症の影響でできなかった。２学期に，美化委員と生徒会を中心に活動を実施し，好評であった。３学期には希望者を募って実施した。 ・電気や水道の使用量のグラフ掲示し，美化委員から節電・節水の協力と呼びかけた。			
		②・海外の高校生徒の交流行事や校外の国際理解プログラムへの参加を積極的に促し，参加に向けた適切な指導を行なう。		②・オーストラリアへの語学研修は中止となったが，県内の大学（四国大学）の留学生（５か国）との交流会を開催し，10名の生徒が参加した。 ・四国大学で行われた「わくわくイングリッシュセミナー」に8名参加した。 ・台湾の学校とZoomでの交流会も行った。			

令和2年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表（8）

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価			学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
(8) 開かれた学校づくりと安全教育の推進	① 地域貢献活動等の活性化や、ホームページ等を活用した広報活動の充実を図り、家庭や地域の連携を深め、外部評価結果を生かす取組を促進する。 ② 地域と連携した安全・防災教育の積極的な推進に努め、地域防災を担う人材を育成する。	評価指標		評価指標の達成度		総合評価	○保護者や地域社会への広報ツールとして、ホームページの速やかな更新と内容の充実に取り組んでいることを評価する。ホームページ閲覧の積極的な呼びかけもお願いしたい。 ○ホームページはとても充実していると思う。コロナの影響で学校行事に参加することが今年一度もなかったが、ホームページを見て行事に参加したような感覚でいる。ホームページの充実度は達成できているように思う。 ○ホームページの利用を促す必要がある。内容は充実していると感じる。 ○防災訓練・教育に関する生徒の満足度は約9割であり、自主的で活発な活動が見られることは、大変頼もしく感じる。継続して取り組んで欲しい。 ○被災時、高校生は、地域社会の住民避難や被災者支援に主体的、精力的に活動する存在となることが期待されている。何ができるかを考える機会を組み入れて欲しい。	○ホームページについては、学校行事の様子を実施後速やかに発信できたが、生徒の興味が高い部活動の結果などがあまり更新できていない。そのため、生徒の肯定的な意見が評価指標に達しなかったと思われる。 防災クラブの生徒だけでなく、全校生徒が講習会などを通して、必要な知識や技術を得られた。また、防災・減災の意識を高めることができた。
		① ・ボランティア活動を通じて感動や喜び、達成感などを習得し、心豊かな生徒の育成をめざす。 ・学校行事や部活動のホームページ更新を速やかに行い、「ホームページが充実しており、学校の活動状況を理解するのに役立っている」と思う割合を、生徒・保護者とも70%以上をめざす。		① ・今年度は新型コロナウイルスの影響で、積極的な活動ができなかった。 ・ホームページが充実しており、学校の活動状況を理解するのに役立っていると思う割合は、生徒は60.1%（前年比0.8ポイント減）、保護者は66.8%（前年比1.8ポイント増）となり、保護者の評価指標は増加したが、生徒・保護者とも目標達成はできなかった。		〈評定〉 B		
		② ・防災・減災の意識が向上したと実感できる生徒の割合を80%以上にする。		② ・防災訓練・教育に関する生徒の満足度は88.7%で、防災訓練当日も、生徒たちの自主的で活発な活動の様子が見受けられ、自助・共助の意識や行動力の高まりを感じた。		〈所見〉		
		活動計画		活動計画の実施状況				
		① ・吉野川市「レッツ・クリーン」に参加し環境美化を推進する。 ・イベントに際しては積極的にボランティアとして参加させる。 ・ホームページ更新方法の講習会等を開き、掲載情報の拡充に重点を置き、最新情報の掲載や項目の追加を適時効果的に行う。 ② ・より実践的で生徒らが主体的にできる防災訓練・避難訓練を実施する。 ・地域の防災訓練への参加呼びかけを行う。 ・防災クラブによる積極的な防災活動を学校行事などを通して実施する。		① ・今年度は新型コロナウイルスの影響で、積極的な活動ができなかった。 ・ホームページの更新方法の講習会を開くことができた。学校行事の様子を実施後速やかに発信した。 ② ・防災訓練では、毎年その内容を変更している。今年度は、コロナウイルス感染症の影響もあったが、Zoomを用い、工夫して実施した。 ・防災クラブの活動としては、学校行事だけでなく、校内での防災講習会など、積極的に活動した。主体的に行動できる人材を育成することに貢献できた。				